

国際ナノテクノロジー会議(INC)について (INC = International Nanotechnology Conference on Communication and Cooperation)

経緯

2004年5月20日、IntelのPaolo Gargini氏(International Technology Roadmap for Semiconductors代表)が総合科学技術会議大山議員(当時)を訪問し、2005年春に開催を検討中の標記会議について説明し、日本の参加を要請したことが発端。

第1回(2005)は米欧2極の会合に日本はオブザーバー参加。第2回(2006)から、日米欧3極で開催。

2004年4月27日に欧州サイドの政府(欧州委員会)及び産業界代表と米国の代表が会合し、ナノテクノロジー分野の国際協力を進めていくことで合意。ワシントン D.C.で国際ナノテクノロジー会議を産官の代表者が主催することを確認。また同会議の開催には日本にも参加を呼びかけることとした。

内容

同会議の目的は、情報交換、ならびに協力の可能性を探ること。世界中の産学官の関係者が集まり、ナノテクノロジー関連の取組みについて、overviewを中心とした口頭発表や、研究開発に関するポスター発表を行う。

同会議はナノテクノロジー全般をカバーすることを想定しているが、基本的には半導体電子デバイス分野が中心となっている。

開催状況

INC1(主催・米):2005年6月1~3日、約270人、米・サンフランシスコ

INC2(主催・米):2006年5月16~18日、約250人、米・アーリントン

INC3(主催・欧):2007年4月16~19日、約270人、ベルギー・ブラッセル

INC4(主催・日):2008年4月14~17日、約250-300人、東京(予定)

会場:学術総合センター(竹橋)

第4回会議(INC4、2007.4.14(月)-17(木))での日本側体制

日米欧3極組織対応:内閣府総合科学技術会議事務局を窓口として、政府側は内閣府、文部科学省、経済産業省、民間側は(独)物質・材料研究機構(NIMS)、(社)電子情報技術産業協会JEITA/JS A(JEITA)、ナノテクノロジービジネス推進協議会(NBCI)が主軸を形成。米欧との3極組織を構成。

国内実施主体:NIMS, JEITA, NBCI,が中心となり国内委員会を組織し、会議運営の国内主体として主催。